

F

シンガポール Singapore



生徒たちに
健康的な食生活を



シンガポールのTeck Whye中学では、経済的に恵まれない家庭に生まれ、1日3回の食事または栄養価の高い食事をとれない生徒が毎年およそ250人います。

J&JはTeck Whye中学と協働し、従来からあった食券配布制度をより包括的なプログラムとして立ち上げました。これによって生徒たちは最低でも1日1回はきちんとした食事ができるようにします。

プログラムは、①家政学の授業による栄養教育②体育の授業による健康とフィットネス活動③学校で提供される昼食による健康的な食生活の育成の3つの要素で構成され実施されています。

G

インド India



HIV/AIDS
予防プロジェクト



インドでは、南アフリカとジンバブエに次いで世界で3番目に多い250～300万人ものHIV陽性者が暮らしています。

J&Jは、2009年以来Population Services International (PSI)と協働して、HIVに感染するリスクが高い集団を対象としたプログラム「Project Saadhan」に取り組んできました。大きな目的は、HIV感染者数を減らすということです。

このプロジェクトではこれまでに、12000人以上もの人々を支援し、HIV感染リスクを減少させるための広報活動を実施し、質の高い予防製品の配布、カウンセリングや検査などさまざまなサービスを提供しています。

アジア・パシフィック
社会貢献親善大使について



アジア・パシフィック・コントリビューションズ・コミッティ (APCC) では、自ら積極的に社会貢献活動に取り組む社員を称えるとともに、各国の代表として交流を図る「アジア・パシフィック社会貢献親善大使」を14の国・地域ごとに任命しています。各国・地域の代表となった親善大使は、任期の1年間、それぞれの社会貢献に対する思いや経験を、各国の大使や、周りの社員、その家族、友人などと分かち合います。2011年で任命式は第5回目を迎えました。

健全な社会づくりと生活の質の向上に貢献した方々を称える

ヘルシー・ソサエティ賞

ヘルシー・ソサエティ賞とは

ヘルシー・ソサエティ賞は、学術・教育、医療、政治、ボランティア・市民活動などを通して、人々の健康、地域の保健、クオリティ・オブ・ライフ向上に多大な貢献をした個人、あるいは組織のリーダーを顕彰する目的で、公益社団法人日本看護協会とジョンソン・エンド・ジョンソン グループによって2004年に創設された賞です。

5つの受賞部門

ヘルシー・ソサエティ賞には下記の5つの部門があります。

■教育者部門

教育を深め、人々に更なる知識を与えた実績を対象とします。

■ボランティア部門

チャリティー活動等、非営利団体に活躍されている方、もしくは市民としての活動等で国内・国外で指導的役割を果たしている方を対象とします。

■医療従事者部門

社会的に不利な立場にあり援助を必要としている方々のケアのために特別な努力をされた方を対象とします。

■公職部門

通常求められている職務の範囲を超えて、国民または地域住民のために積極的な努力をされた方を対象とします。

■青年部門

30歳以下の青年で、他者のよりよい人生を送る助けとなる素晴らしい活動を行った方、または継続して行っている方を対象とします。

審査のプロセス

各界の著名な有識者8人からなる審査委員会の厳正なる審査によって受賞者が選出されます。



2012年4月10日、東京・千代田区の帝国ホテルで行われた第8回授賞式

第8回の受賞者のみなさん

平成23年度第8回のヘルシー・ソサエティ賞は、以下の3部門6名の方が受賞されました（敬称略）。

●教育者部門（国内）

片田敏孝
群馬大学大学院 工学研究科 教授

●教育者部門（国際）

赤木洋勝
有限会社国際水銀ラボ 所長

●ボランティア部門（国内）

國松孝次
認定NPO法人 救急ヘリ病院ネットワーク 理事長

●ボランティア部門（国際）

楠川富子
JICA シニア海外ボランティア、カンボジア国立小児病院 看護部長

●医療従事者部門

秋山正子
株式会社ケアーズ 代表取締役、白十字訪問看護ステーション 統括所長

●医療従事者部門

大森安恵
海老名総合病院・糖尿病センター センター長、東京女子医科大学 名誉教授